

平成24年度 公共事業再評価調書

(区分) 国補・県単

1. 再評価調書

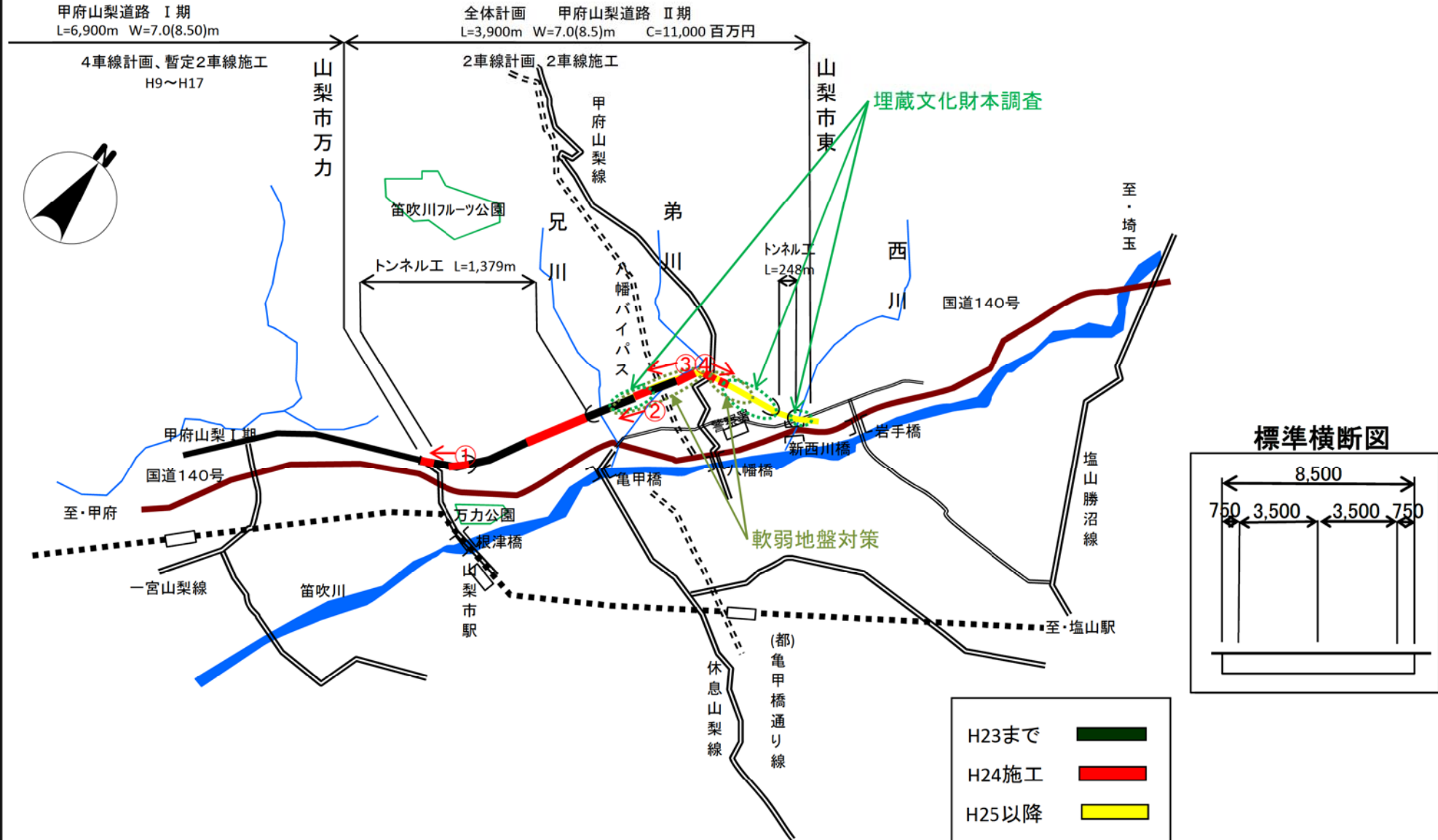
事業名	道路事業 [国道橋りょう改築事業 (国補)]		事業箇所	山梨市万力～東	地区名	国道140号(甲府山梨道路Ⅱ期)	事業主体	山梨県												
	当初計画	現計画	今回見直し予定		⑤再評価時等の評価状況 (平成19年度事前評価) 西関東連絡道路は地域高規格道路に位置づけられ、山梨県の骨格道路であり社会的受益は大きくきわめて公共性が高い。また、費用便益比(B/C)が2.3であり1を超えている。さらに、現道の渋滞緩和などが図られるなど実施が妥当である。															
計画期間	H20～H27	—	H20～H28																	
総事業費	10,500百万円	—	11,000百万円																	
(1) 事業の概要																				
①事業目的及び効果 本路線が属する西関東連絡道路は、地域高規格道路として山梨県と埼玉県の連携強化や甲府市と峡東地域の交流強化や活性化を促す役割を担っている。甲府市桜井町から山梨市万力までを甲府山梨道路Ⅰ期として供用中であり、西関東連絡道路への交通転換により現道の渋滞緩和及び移動時間の短縮や交通事故の減少が図られた。 しかし、現道の山梨市万力以北の西関東入口交差点をはじめ兄川橋北、八幡橋西交差点などは現在も渋滞が発生しており、また、交通事故死傷率も高いことから、本路線の整備によりこれらを解消したい。																				
②事業概要 道路規格：第3種第2級 設計速度：60km/h 自動車専用道路 道路延長：L=3,900m 道路幅員：W=7.0(8.5)m(歩道なし) ランプ：万力ランプ、八幡南ランプ、八幡北ランプ、岩手ランプ 主要構造：盛土構造 主要構造物：橋梁6橋、トンネル2箇所(L=1,379m、248m)																				
③全体計画 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度まで</th> <th>平成24年度 (評価実施年度)</th> <th>平成25年度以降</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事内容</td> <td>測量及び道路設計 用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事</td> <td>用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事</td> <td>用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事 舗装工事 道路施設工事</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>5,131百万円</td> <td>1,800百万円</td> <td>3,569百万円</td> </tr> </tbody> </table>										平成23年度まで	平成24年度 (評価実施年度)	平成25年度以降	工事内容	測量及び道路設計 用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事	用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事	用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事 舗装工事 道路施設工事	事業費	5,131百万円	1,800百万円	3,569百万円
	平成23年度まで	平成24年度 (評価実施年度)	平成25年度以降																	
工事内容	測量及び道路設計 用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事	用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事	用地取得・補償 道路改良工事 トンネル工事 橋梁工事 舗装工事 道路施設工事																	
事業費	5,131百万円	1,800百万円	3,569百万円																	
④特記事項 甲府山梨道路Ⅰ期 H9～H17 L=6,900m W=7.0(8.5)m (暫定2車線)																				
(2) 評価項目 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]																				
①地域・住民の意向状況 なし																				
②産業・経済情勢 なし																				
③国等の方針変更 なし																				
④上位計画・関連事業計画等の変更 平成23年10月「第二期チャレンジ山梨行動計画」に位置づけられた。																				
⑤自然環境条件等の変化 なし																				
⑥その他 なし																				
(3) 評価項目 [再評価時点の費用対効果分析]																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業採択時計画における事業全体B/C (平成19年度) 便益(B)/費用(C) = 1.4※ &gt;1.0</li> <li>・再評価時計画における事業全体B/C (平成24年度) 便益(B)/費用(C) = 1.2 &gt;1.0</li> </ul> <p>※平成20年11月に改訂された「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」に従い、国補事業採択時に見直した値。</p>																				

## 2. 再評価調書

<p>(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]</p> <p>①計画変更等の概要          平成22年度に実施した埋蔵文化財の試験掘削の結果により、本調査が必要となったため平成23年度に実施した。また、地質調査により軟弱地盤があることが判明したため、平成23年度に地盤改良などを実施している。          (事業費)          埋蔵文化財本調査費用 300百万円          軟弱地盤対策 200百万円</p> <p>②施行済みの事業内容          基本的には全体計画のとおりであるが、平成23年度に埋蔵文化財調査と軟弱地盤対策を実施した。</p> <p>③進捗率</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>平成20年度</td> <td>平成21年度</td> <td>平成22年度</td> <td>平成23年度</td> <td>*平成24年度</td> </tr> <tr> <td>計 画</td> <td>6.7</td> <td>14.3</td> <td>28.6</td> <td>47.6</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>3.1</td> <td>18.6</td> <td>33.6</td> <td>48.8</td> <td>66.0</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>平成25年度</td> <td>平成26年度</td> <td>平成27年度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 画</td> <td>80.9</td> <td>95.2</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>*再評価実施年度          H24の実績は見込</p> <p>④事業の進捗が順調でない理由          ・平成20年度当初に国庫補助の内示を受ける予定であったが、道路特定財源の暫定税率を巡る道路事業の選定方法見直しにより国からの内示が見送られ、平成21年3月にずれこんだことにより、事業着手に約1年の遅れが生じた。          ・計画期間内での完了に向け、事業推進を図ったものの用地取得に時間を要し事業完了が平成28年度となる。</p>		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	*平成24年度	計 画	6.7	14.3	28.6	47.6	66.7	実 績	3.1	18.6	33.6	48.8	66.0		平成25年度	平成26年度	平成27年度			計 画	80.9	95.2	100.0			実 績						<p>⑤今後の事業執行上の問題点          平成24年3月末時点での用地取得率は89%であり、早期供用開始を目指している万カランプから八幡バイパス間では1名の権利者の用地が未取得である。岩手地区には共有地が2筆あり、権利者の特定に時間を要している。</p> <p>⑥今後の事業の進捗の見込み          万カランプから八幡バイパス間については平成26年末の部分供用を目指しており、土地収用法の適用も視野に入れながら事業期間内での供用を図っていく。</p> <p>⑦事業計画の変更の見込み・可能性          埋蔵文化財調査費および軟弱地盤対策に伴う総事業費の見直し</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>事業費</td> </tr> <tr> <td>埋蔵文化財調査費用</td> <td>3億円の増</td> </tr> <tr> <td>軟弱地盤対策</td> <td>2億円の増</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5億円の増</td> </tr> </table>		事業費	埋蔵文化財調査費用	3億円の増	軟弱地盤対策	2億円の増	合計	5億円の増
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	*平成24年度																																								
計 画	6.7	14.3	28.6	47.6	66.7																																								
実 績	3.1	18.6	33.6	48.8	66.0																																								
	平成25年度	平成26年度	平成27年度																																										
計 画	80.9	95.2	100.0																																										
実 績																																													
	事業費																																												
埋蔵文化財調査費用	3億円の増																																												
軟弱地盤対策	2億円の増																																												
合計	5億円の増																																												
<p>(5) 評価項目 [コスト縮減の可能性]</p> <p>なし</p>																																													
<p>(6) 評価項目 [代替案立案の可能性]</p> <p>なし</p>																																													
<p>(7) 所管部の今後の方針    継続・<b>見直し継続</b>    その他 (    )</p> <p>(理由)          甲府山梨道路Ⅰ期の整備効果を最大限発現するとともに、国道140号現道の渋滞緩和や事故減少を図るため事業期間を1年延長し、平成28年度の完成を目指す。</p>																																													

3. 添付資料シート (1)

省略







① I期終点～万力地区施工状況



②(仮)万カトンネル八幡側～南地区施工状況



③八幡バイパス交差部施工状況



④北地区～荒神山方面施工状況